

1690 | 工芸教育法Ⅱ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授

授業の概要と目標

「手仕事」や「もの作り」の視点から工芸教育法の理念を考察した工芸教育法Ⅰを基に、ここでは工芸教育の歴史及びデザイン・工芸史を概観し、現代の学校教育の中での工芸教育の位置付けを明らかにしていく。また現在の学習指導要領は地域の特色ある材料を生かすことや、伝統的な工芸についての理解や鑑賞、そこからの発想などを重視している。これらを踏まえて、身近な自然や環境との出会いを基にして始まる初等教育段階の造形美術教育と、中等教育段階の工芸領域における材料体験を重視した学習とのつながりを考察し、中学校美術科工芸領域及び高等学校芸術科工芸の具体的な題材について学習する。

課題の概要

○通信授業課題 面接授業で提出

身近な伝統工芸をひとつ取り上げ解説をし、それを基にした中学校美術科工芸領域あるいは、高等学校芸術科工芸の授業題材としての展開の可能性を論述する。

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

所定の用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

取り上げた伝統工芸作品の写真などを添付すること。

授業題材としての展開ではその目的や方法などを具体的に想定する。

○面接授業課題

高等学校芸術科工芸Ⅰにおける表現と鑑賞の授業計画案を作成し、その評価の観点を論述する。

学習指導要領の主旨を生かし、発展的な授業計画案を考える。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

通信授業



面接授業

[通信授業]

地域の伝統工芸について調査するとともに、『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』を中心として、現代の学校教育における工芸授業実践の目的や内容、方法などを考察し、題材展開の実際を学習する。

- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容、内容の取り扱い

[面接授業]

工芸教育の意義を歴史的視点から考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、現代の中等教育における工芸の指導の実際を学習する。

第 1 日 伝統工芸の題材化（通信課題を中心として）／工芸学習の実際

第 2 日 デザイン史、工芸史、工芸教育史概説／中学美術工芸領域、高等学校学習指導要領芸術科工芸についての考察、／工芸技法の基礎理解

第 3 日 題材設定の作成、発表、講評

成績評価の方法

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4 年次

[履修条件] 教職課程（高校 1 種 [工芸]）に登録していること。

「工芸教育法Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] なし

教材等

- 教科書：大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2008年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009年）
学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』
（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）
※スクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

その他

- 参考図書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）
三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）